

三重県認可 特定非営利活動法人
介護専門・アニマルセラピー協会
わんとほーむ

ご案内書



〒510-8122

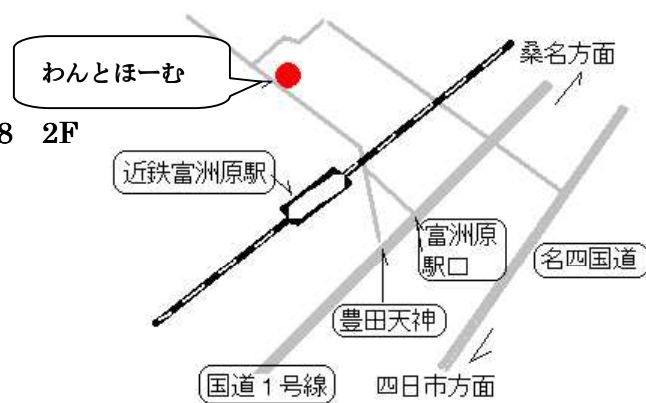
三重県三重郡川越町大字豊田字豊福 598 2F

TEL 059-361-6006

FAX 059-361-6005

URL <http://www.wantohome.jp>

Mail contact@wantohome.jp



挨拶

理事長 川村 貫慈

現代日本が抱えている少子・超高齢社会及び社会の対人関係希薄性等の問題における動物のニーズが、現在我が国において益々高まっている現状があります。そうした環境の中で、福祉・医療分野における「動物の癒し」が注目を浴びており、私共はこの動物にしか成し得ない「力」を介護予防に役立てれないかと考えました。まだまだ始まったばかりの、特殊な専門分野事業ではありますが、福祉・医療及び動物関連分野の様々な方々のご協力を得ながら、皆様と共に当法人を創っていきたいと考えております。ゆっくりになってしまいかとは思いますが、誰の為・何の為」を合言葉に意味のある活動を行ってまいりますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。

はじめに

本事業は、現代日本における少子・高齢社会及び核家族化や格差社会、社会希薄性の増大に犯罪低年齢化など、我が国が抱える緊迫した問題の中で、様々な場所に登場・活躍し、人間に対し依存する事で精一杯の愛情を求め様とする動物に、どれだけの癒しと呼ばれる「ゆとり」や「安らぎ」を得ているか計り知れず、その効果検証が現在、世界中で研究・実践がなされています。その効果を、福祉・医療現場へ導入・還元出来る専門士を育成・派遣すると共に、けして人間だけでは克服が困難な精神・身体・社会潤滑油的領域の観点から、動物と共に対象者へアプローチしていく事により、各疾患や身体状況の維持・改善において様々な効果が期待出来る事業であります。

目的

本事業の目的は、上記をふまえ高齢者関連施設・在宅や障害児者施設及び、病院等において介護サービスの利用を余儀なくされる方々に対し、当法人が可能な限りの安価にて安全なアニマルセラピー（当協会では「動物介在介護」と総称し、統一しております）を提供し、対象者の QOL・ADL 維持・向上及び社会参加などの促進を図ると共に、地域における人と動物を繋ぎ、又、情報の発信源としての拠点となる事を目的としています。

事業内容

本事業は、アニマルセラピーの効果・正しい知識・正しい技術を広く認知・普及さ

せる為に、下記に事業内容を記します。

I 動物介在専門士の育成スクール事業（随時スクール生募集中！！）

- ①福祉・医療関連資格取得者のみを対象とする動物介在専門士の育成スクールを開催し、正しい知識を身に付けて頂き、各施設等において動物を飼育している組織含め、動物介在分野の認知・理解の普及に貢献していきます。
- ②動物介在介護における専門知識・実技を凝縮したカリキュラム修了後、実技・筆記試験の合格者のみが、当協会認定資格を取得するとなります。
- ③資格取得後は、本協会の派遣事業会員に加入し、各現場にて当協会の完全なるバックアップ（各現場における活動の派遣フォロー・会員の相談カウンセリング・イルカや乗馬療法等のアニマルセラピー体験学習及び宿泊ゼミの安価参加・各学科補習等）の基、低コスト・低リスクの動物介在介護の実践が可能となります。

II 介護支援犬出張事業

- ①現在、ペットブームの煽りを受け、団塊世代含む核家族や各個人の関係希薄社会において、動物の必要性が見直されています。現に近年では、購入・賃貸マンション・アパートは当然ですが、高齢者施設等でもペット同伴入所を許可している施設が増加傾向にある程、福祉と動物分野の領域が密接になってきている事実が存在します。本分野は、現在のこのニーズにすらまだまだ対応出来ておらず、ブームのみが先走ってしまったかのような状況であり、福祉分野もこれに然りかと思えます。だからこそ、この現代福祉・医療・動物関連分野の転換期に、しっかり時代の流れに乗れる専門職が必要になってくる事は必至であり、当法人が提唱する動物介在 介護とは、対象者含む家族も動物も安心した高年期を迎えられる様な、人の生活に密着した「より人生を楽しく生きる為の動機付け」として、人の傍に常に寄り添える事業提案であります。
- ②詳細として、対象者の特徴や依頼内容の違いに対応し、動物介在療法・活動・教育と分類していき、その対象者の意向や目的、障害レベルに疾患等々含む、様々な環境や状況含め、それに合わせた動物介在介護を実践していきます。
 - 例① 在宅にて個人を対象として行う、動物介在型訪問。（犬と共に出掛ける散歩・犬と同じ動きをする体操・犬におやつをあげる etc）
 - 例② 施設等にて大勢を対象として行う、動物介在型レクリエーション。（アジリティの障害物ショー・ミニミニ移動動物園・ドッグダンス etc）
 - 例③ 施設にて個人を対象として行う、動物介在型リハビリテーション。（歩行や発声訓練・動物のリボンやスカーフ等の小物作成や取り付け etc）

III 動物愛護・動物福祉推進事業

保健所等で殺処分予定の犬や、捨てられ身寄りのない仔犬や成犬の譲渡を受け、介護支援犬へ育成する事により、殺処分・動物虐待・捨て動物が少しでも減少する様な運動や働き掛け、取り組み等に力を入れる動物愛護・動物福祉を推進していきます。

IV 動物介在介護研究事業

- ①動物介在介護の医学・科学的研究を、実践と平行して行う効果検証事業。
 - ②動物介在介護における効果を福祉・医療分野に還元していくと共に、様々な福祉・医療・動物関連学会にて研究論文を発表していき、アニマルセラピーの認知・理解・効果を、より深め広める広報含む研究を行う事業。
- アニマルセラピーとは…？

現在世界各国で、様々な動物を精神・身体障害などの治療行為に導入する事で、補助・

非薬物療法などの代替療法の一つとして活用しようという動きが注目されています。これを動物介在療法・活動・教育と、目的・目標により名称変更をしながらも、現在の日本では、その総称として「(俗) アニマルセラピー」という言葉を用いています。

アニマルセラピーの中で最も長い歴史を持つのが「乗馬療法」。一説には古代ローマ帝国時代にまで起源をさかのぼり、戦争で傷ついた兵士たちのリハビリに乗馬が用いられていたといえます。**19**世紀には、パリで乗馬がマヒを伴う神経障害に有効な療法であるという報告がなされ、それ以来治療法のひとつとして意識的に用いられるようになりました。

現在では乗馬療法は完成された治療システムとして考えられ、アメリカ、イギリス、ドイツ、オーストリア、日本などで主に身体的なリハビリを中心に治療に活かされています。

アニマルセラピーの歴史

- ・ 9世紀にギリシャで人の精神及び身体機能に及ぼす効果に関する記録に記載される。
- ・ 1790年イギリス ヨークシャーのヨークレリート精神病院における家畜とウサギの飼育を行い患者の社会性向上に役立つ。
- ・ 1867年ドイツでてんかん患者施設において、患者に鳥や猫・犬などの世話や触れ合いが行われた。
- ・ 1919年ワシントンD. C. 聖エリザベス病院で動物導入等の初めての記録が取られた。
- ・ 1942年ニューヨークで、戦争にて負傷・情緒的外傷を抱えた退役軍人の治療に動物が介在された。
- ・ 1970年以降欧米で人間の疾病治療に動物を介在させる治療促進についての研究や実践が活発になる。
- ・ ワシントンD. C. で第一回 人と動物の相互作用に関する国際会議が開催された。
- ・ 1986年日本の特別養護老人ホーム「横浜さくら苑」にて第一回動物の訪問活動が行われた。

因みに、盲導犬の歴史も古く、紀元前**100**年にさかのぼると言われ、盲目のドイツ王が盲導犬を所有していたことが古文書に記されています。ポンペイの壁画や**13**世紀の中国の絵巻物にも盲導犬の記述がみられます。**1916**年のドイツで、第一次世界大戦にて負傷・失明した軍人のために、盲導犬訓練が組織化されるとアメリカやヨーロッパ各国にも広がり、日本でも**1957**年に国産第一号の盲導犬が誕生しています。

アニマルセラピーの区分

- **動物介在療法 (Animal Assisted Therapy)**

AAT は、医療・リハビリ各専門職の公的資格取得者及び動物ハンドラー等が、対象者に対して治療を行う際にトリートメントチームを組み、高度に訓練された動物（犬・馬・イルカ **etc**）を介在させ、身体・精神面において様々な形式で動機付けなどに用いられている非薬物・補助療法の一つである。これには、目標設定及び記録・評価が必要となり、それは上記、医師・リハビリ **etc.** の公的資格取得者によって設定・実践されなければならない。

- **動物介在活動 (Animal Assisted Activity)**

AAA は、動物との触れ合いを中心として、その時間を楽しく過ごす事を目的としており、目標設定や記録・評価は全く必要のない動物を介在した定義なきレクリエーションである。しかし、動物に求められる訓練レベルは高く、療法でも活動でも慎重な介在が必要とされる。又、療法と同様の効果が得られるケースもあり、どちらが凄くて高度かなどという、安易な考えや思想は取り払う必要がある。対象者は、動物が好きな全ての人といえる。

- **動物介在教育 (Animal Assisted Education)**

AAE は、近年の凶悪犯罪における低年齢化が進んでいる背景に、少子化や核家族問題及び生命の軽視などが問題とされている。これは、子ども達が人間や自然との接点が薄い環境下で、簡単に死に（殺し）生き返る様なメディアやゲームが蔓延（はびこ）る現代において、子ども達に生命の尊さや痛みを学べる機会が極端に減少している事が挙げられる。そこで、情緒教育の一環としても動物との関りや知識、愛護や理解を通じ、人とのコミュニケーションを図り人格形成に役立てると共に、殺人を犯す前に動物虐待が行われるケースが多いという心理学観点からも、動物への理解を深めて貰い虐待防止へ繋げていくと共に、犯罪防止活動などにも取り組んでいる。対象者が例外はあるものの、子ども達が中心という事も特徴の一つであり、現代日本における将来を見据えた際、とても大切な活動であると考えられている。

捨てられた後の動物の運命とは…

捨てられた犬猫の運命は…～78 円の命～

全国で、無責任な飼い主に捨てられ、保健所に持ち込まれ殺処分される動物は、年間総500万頭(1日約1000頭)ともいわれています。保健所での抑留期間を終えた動物達は、細い最後の通路を歩かされ、機械で押され、二酸化炭素で窒息死させられます。けして、安楽死ではありません。苦しみ、もがき、暴れながら死んでいきます。二酸化炭素窒息死の費用は、1頭約78円です。人を最後まで信じ、疑わない瞳をする子もいれば、人なんて絶対信じないという瞳の子もいます。ペットブームの裏に潜む現実を、私達と共に目を反らさず、その動物達の瞳に向き合ってみませんか…!? 現在、年間300億以上の税金をかけて、その動物達が殺されていきます。紛失物でも6ヶ月は預かって貰える時代に、その「ペット」と呼ばれる生命の軽さを、私達が少しでも重く出来る手助けを考えていきたいと思います。現在、協会ではサポーター(協会会員、支援者)を募集しています。ご協力をお願い致します。

1. わんと会員

会費	入会金 1,000 円、年会費 3,000 円
内容	特別な資格は必要ありません。得意の分野でご協力下さい! 例えば・・・ 介護支援犬のトリミング、広報活動、経理、イベント受付 など

2. 賛助会員

会費	年会費 3,000 円
内容	「わんと基金」への寄付。(一口 3000 円) ※年会費が協会の活動資金にあてられます。